

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地											
専門学校 ユマニテック医療福祉大学校		平成11年4月1日	大橋正行	〒510-0854 三重県四日市市塩浜本町2-36並びに三重県四日市市塩浜本町2-34 (電話) 059-349-6033											
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地											
学校法人 みえ大橋学園		昭和27年9月19日	理事長 大橋正行	〒510-0067 三重県四日市市浜田町13-29 (電話) 059-353-4311											
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士										
医療	医療専門課程	理学療法学科		平成6年文部省 告示第84号	平成17年文部科学省 告示第139号										
学科の目的	本校は、学校教育法第124条及び第125条第3項、126条第2項並びに、理学療法士及び作業療法士法(昭和40年法律第137号)、歯科衛生士法(昭和23年法律第204号)、社会福祉士及び介護福祉士法(昭和62年法律第30号)に基づき、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、介護福祉士に必要な知識・技術を習得させ、豊かな人間性と教養を培うと共に社会に貢献し得る人材を育成することを目的とする。														
認定年月日	平成30年5月18日														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技								
4年	昼間	3405時間 (令和3年度12年)	1770時間	540時間	1095時間	0時間	0時間								
		3420時間 (令和3年度3年)	1740時間	540時間	1140時間	0時間	0時間								
		3405時間 (令和3年度4年)	1395時間	810時間	1200時間	0時間	0時間								
		単位時間													
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数										
160人	105人	0人	6人	45人	51人										
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: (有) ■成績評価の基準・方法 筆記試験及び実技試験によるものに出席率を加味する。										
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月30日～9月5日 ■冬季:12月28日～1月5日 ■春季:3月2日～ ■学年末:3月31日		卒業・進級条件		進級判定会議または卒業判定会議の結果、定めた全ての科目を取得した学生は当該学年を修了し、進級または卒業することができる。										
学修支援等	■クラス担任制: (有) ■個別相談・指導等の対応 保護者会の開催、適宜保護者との電話連絡の実践。専門家によるカウンセリング相談の開催。		課外活動		■課外活動の種類 各種ボランティア活動への参加 ■サークル活動: 無										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 病院、診療所、介護福祉施設、理学療法関連施設等 ■就職指導内容 就職説明会の開催、カウンセリングの実施。 ■卒業者数 : 19 人 ■就職希望者数 : 19 人 ■就職者数 : 17 人 ■就職率 : 89.5 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 89.5 % ・進学者数: 0人 (令和2年度卒業者に関する 令和3年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士 国家試験</td> <td>②</td> <td>19人</td> <td>17人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士 国家試験	②	19人	17人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数												
理学療法士 国家試験	②	19人	17人												
中途退学の現状	■中途退学者 4名 ■中退率 4.1 % 令和2年4月1日時点において、在学者97名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者93名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合・経済的問題・学力不足・進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、保護者を含めた面談の実施。学費工面の案内。保護者会の開催。転科の推奨。														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)・無 ※有の場合、制度内容を記入 入学時の単位認定に関して学費減免を実施。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: (有)・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 平成30年11月7日受審(平成31年4月1日～令和6年3月31日)														
当該学科のホームページURL	URL:https://www.humanitec-re.jp/														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

卒業時に求められる専門職像とその後の職種としての完成像を明らかにする。企業との連携により、業界で求められる新しい知識・技術やトピックスを視野に入れながら、日々の教育活動に求められる事柄を検討する。学生の習熟レベルと到達すべきレベルの両方を視野に入れて、具体的に教育課程の編成に取り組む。評価の視点や目標を定め、次回の教育課程の編成や次年度の授業内容・授業方法の検討に活かせるようにする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会規程第2条「委員会は、教育課程の編成のために必要な意見交換を行い、カリキュラム、授業内容、授業方法の見直し・検討に資する事を業とする。」に基づき、本委員会での指摘、助言、指導を受けた内容を学科会議で検討し、学校運営会議を経て、本学園理事会に提出し、決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
南出 光章	一般社団法人 三重県理学療養士会会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	①
河合 秀哉	医療法人 富田浜病院 リハビリテーション部 係長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
明星 隆希	専門学校ユマニテック医療福祉大学校同窓会会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回以上の開催とする。令和2年度は、7月と2月に実施した。

(開催日時)

- 第1回 令和2年7月29日(水)コロナ感染の影響によりオンラインで開催
第2回 令和3年2月3日(水)コロナ感染の影響によりオンラインで開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

指定規則の改定に伴い、カリキュラムの変更を行ったことについて、数年かけて改善することを検討する。カリキュラム外ではあるが、多職種連携教育は、重要なキーワードであり、それを経験できるようにしているが、さらに発展させられるような企画を検討する。臨床実習において、在宅患者のリハビリテーションを見学する機会が少ないことから、地域理学療法や予防理学療法の進展に伴って重要視する必要性があることを考慮して、実習内容を検討する。就学の動機づけとして、理学療法士が働く姿を見せることは重要であることから、三重県理学療法士会と協力し、高校生の職場見学会について提案することを検討する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

医療福祉分野の病院や施設との担当者と連携し、学生が現場経験を行い、実際に障がい者との関わりを通して、職業及び専門的な技術や知識を学ばせる。また、障がい者・現場スタッフとのコミュニケーションについても適正な態度や姿勢を学ばせる。また、現場の指導者やスタッフからは、学生の技術・知識・態度・姿勢等が適切であるか、その習熟について評価してもらう。専門家としての将来像・職業イメージを明確にさせる場とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

年2回、指導者会議を開催し、臨床実習の各指導者と意見交換をする場を設けている。また、3、4年生については、教員が実習施設を訪問・巡回し、学生の様子を把握している。また、必要に応じて、電話や数回の巡回を行う対応をしている。臨床実習は、出席状況と症例報告会の内容等を加味して、総合的に学科会議にて合否判定を行う。学内にて実習前評価を実施し、その結果を実習施設に報告している。臨床実習指導者は、実習チェックシートについて記入する。また、実習チェックシートを用いて、実習が連続して行えるように前実習施設からの引き継ぎ内容を次の実習施設へ伝達し、適切な学生指導が出来る環境作りに努めている。また、地域包括ケアシステム導入に向けて、連携企業から指導者を招き、臨床実習に向けた講義および実習を学内において行っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
見学実習	医療機関等における理学療法士の仕事内容と役割について理解する。患者様の持つ様々な障害の全体像を理解する。理学療法士を学ぶ学生にふさわしい人間性を獲得する。	実習病院および実習施設：総数87
評価実習Ⅰ	学校で学習した関節可動域検査、徒手筋力検査を、実際の臨床場面で体験し学習する。各評価項目に対して、適切かつ信頼性のある検査測定が行えることを目標とする。	実習病院および実習施設：総数87
評価実習Ⅱ	障害を有する患者様に対して適切な検査測定項目が選択でき、総合的な評価が実施できる能力を習得する。検査測定結果から問題点を抽出する能力を習得する。	実習病院および実習施設：総数87
総合実習	評価の結果をもとに適切なプログラムを作成し、臨床実習指導者の監督下で適切な治療、訓練方法を習得する。	実習病院および実習施設：総数87

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修等に係る諸規程に従い、「本規程で定める研修の目的は、教員に対して学校運営に必要な知識及び技能を計画的に教育し、これにより各自の自己啓発を促し、教育目標を達成するために必要な指導力・専門技術をもつ教員を育成することにある(第1条)」を目的とする。基本方針は、専門技術研修(教員が専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能の修得・向上を目的として組織的な研修を行う。)と指導力研修(教員が授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上を目的として組織的な研修を行う。)に基づいて教育・研修等を行う。これら研修は、事業計画を学科会議で作成・審議し、学校運営会議、学園理事会を経て決定される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

第4回日本リハビリテーション医学会学術集会

会場:神戸コンベンションセンター

日程:2020年11月20日～22日

第22回日本骨粗鬆症学会

会場:神戸国際会議場

日程:2020年10月9日～11日

第50回日本臨床神経生理学会学術大会

会場:国立京都国際会館

日程:2020年11月26日～28日

第57回日本リハビリテーション医学会学術集会

会場:国立京都国際会館

日程:2020年6月11日～14日

第62回平滑筋学会総会

会場:倉敷市芸文館

日程:2020年8月20日～22日

以上の研修会はコロナ感染症により中止となった。

② 指導力の修得・向上のための研修等

コロナ感染の影響により校内(オンライン)研修のみ参加となった。

第1回教職員研修会

日時:令和2年8月6日(木) 15時～17時

会場:ユマニテク医療福祉大学校 講堂

内容:テーマ 「オンライン授業の成果をどう活用するか」

(1)講演(講師 三重大学教養教育院教授・医学部 医学・看護学教育センター 教授(兼)太城康良先生)

(2)教員及び学生アンケート報告

(3)各学科からの報告(8分×5学科:理学療法学科、作業療法学科、歯科衛生学科、介護福祉学科、看護学科)

(4)Zoomエデュケーションプランの活用方法

第2回教職員研修会

日時:令和3年3月8日(月) 15時～16時50分

会場:ユマニテク医療福祉大学校 講堂

内容:

・研修1

(1)テーマ 学生指導にどう生かすか ～学生の相談からみえるもの～

(2)講師 スクールカウンセラー 棚橋 めぐみ (博士(医学)、臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士)

(3)内容 講演

・研修2

(1)テーマ 職業倫理研修 ～ハラスメントの起こらない職場にするためには～

(2)講師 校長 和田 欣子

(3)内容 講義

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

第58回 日本リハビリテーション医学会学術集会

日程 2021年6月10日(木)～13日(日)

会場 国立京都国際会館

第9回日本運動器理学療法学会学術大会

日程 2021年9月11日(土)・12日(日)

会場 長良川国際会議場・都ホテル岐阜長良川

第39回日本骨代謝学会学術集会

日程 2021年10月8日(金)～10日(日)

会場 神戸国際会議場・神戸国際展示場

第34回教育研究大会・教員研修会

日程 2021年10月23日(土)・24日(日)

会場 福岡国際医療福祉大学

第51回日本臨床神経生理学会学術大会
日 程 2021年12月16日(木)～12月18日(土)
会 場 仙台国際センター

第95回年会日本薬理学会総会
日 程 2022年3月7日(月)～9日(水)
会 場 国立京都国際会館

第58回 日本リハビリテーション医学会学術集会
日 程 2022年3月7日(月)～9日(水)
会 場 福岡国際会議場・福岡サンパレス

②指導力の修得・向上のための研修等

第1回教職員研修会

日 時:令和3年8月18日(水) 14時～16時
会 場 オンライン開催(Zoom形式、オンデマンド対応あり)
内 容

・研修1:14:00～15:00(質疑応答10分を含む)

(1)講 師 名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 校長 星野 正純 先生

(2)テーマ 私学人に必要な資質と考え方

(3)内 容 今春学園の研修会講師を務められました星野正純先生にこの時のテーマでも
ありました私立学校人としての教職員のあるべき姿についてご講演を賜ります。

・研修2:15:00～16:00(質疑応答10分を含む):

(1)講 師 三重県 消費生活センター班 講師 尾崎 靖 先生

(2)テーマ 成人年齢に引き下げ ～ 若者がいきいきと活躍社会へ ～

(3)内 容 2022年4月より18歳に成人年齢が引き下げられるにあたり、その内容について
理解して、学生指導に留意する点についてご講演を賜ります。

第2回教職員研修会

日 時:令和3年3月開催予定
会 場 オンライン開催(Zoom形式、オンデマンド対応あり)
内 容 未定

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育目標と学校運営の方針等を明らし、それに照らして日々の活動の適切性について学校評価・自己評価を行う。公表された学校評価・自己点検について、業界関係者・関係施設役員及び学校運営責任者等による学校関係者評価を行う。また、公表した事で得た意見を十分に活かしつつ学校改善を行い、それを自己点検・自己評価する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学生のコミュニケーション能力や接遇面の向上のための対策として、学年間での交流の機会を持ち、社会性を身につけさせるための取り組みを検討する。また、高校での進路ガイダンス等を利用して、理学療法士という職種の職業理解を得られるような内容にブラッシュアップさせるための取り組みを検討する。さらに、ボランティア活動を通して、地域に貢献するという姿勢を体験し、奉仕の精神を養えるような企画を検討する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
明石 典男	三重県社会福祉協議会 事務局次長	平成2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	関係団体
太城 康良	三重大学教養教育院 医学部医学・看護学教育センター(兼)教授	平成2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	関係団体
伊藤 正敏	三重厚生連三重北医療センター 作業療法室	平成2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	関係企業 卒業生
松浦 公紀	医療法人尚徳会 ヨナハ介護老人保健施設	平成2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	関係企業 卒業生
山本 浩二	社会福祉法人風薫会 特別養護老人ホーム風の路施設長	平成2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	関係企業
山田 順子	歯科衛生学科同窓会長	平成2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	卒業生
藤田 泰樹	大橋学園高等学校校長	平成2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	高等学校

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <http://www.humanitec-re.jp/>

公表時期: 令和2年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「地域に貢献し、信頼される学校」となりうるために情報を公開する。専門学校における情報提供等への取組みに関するガイドラインに則り、学校情報を企業等の外部の方々へ提供する事で、本校に対する理解を深める。また、情報を可能な限り可視化する事で学校に関する意見等を出しやすくし、さらなる企業等との連携を強化したい。入学希望者・保護者及び高校の先生方に必要な情報を提供し、学校選びの参考としていただく。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	校長名、所在地、連絡先など
(2) 各学科等の教育	学習の成果としての取得を目指す資格、合格を目指す検定など
(3) 教職員	教員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	資格・就職
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況
(6) 学生の生活支援	学生支援への取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生給付金の取り扱い(金額、納入時期等)
(8) 学校の財務	資金収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.humanitec-re.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科) 令和3年度1年生、2年生																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			健康科学	わが国の健康と病気に関する背景を理解でき、健康と体力、運動との関係について正しく理解できるようになる。また健康を維持増進するための運動に取り組み、仲間と積極的にコミュニケーションをとることができるようになる。	1年・前期	30	1			○	○			○		
○			コミュニケーション学	①言葉遣いや身だしなみ等、社会人として当たり前の礼儀を学び、自然と実行できるように習慣づける。②医療従事者として患者さんの心に寄り添った接し方ができ、信頼関係を築くコミュニケーションの基本を身につける。③今後経験するであろう様々な困難にもくじけることなく、前向きに考えられる思考を身につける。	2年・前期	30	2	○			○				○	
○			基礎統計学	記述統計や推測統計の基本的な方法について理解し、それを利用することができる。	1年・前期	30	2	○			○				○	
○			情報処理	Word、Excelの基本操作を習得することを第一の目的とする。さらに必要な情報をインターネットから探し出し、それらのデータをどのように活用し分析するのか情報処理の作業デザインを考えられるようになる事を目標とする。	1年・前期	30	1		○		○				○	
○			社会学	身近で理解が平易なテーマを基礎としながら、社会経済の事象を単体で捉えるのではなく、相互に関連させながら、問題の発現メカニズムを理解するとともに、あるべき社会像をみいだす為の基礎知識を習得することを目的とする。	1年・前期	30	2	○			○				○	
○			生物学	DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成されることと、それに関与する細胞内小器官も役割を理解する。また、ある個人のDNAも配列を明らかにすることで、その人がかかり易い病気がある程度予測することが出来る時代になってきていることを理解する。また細胞分裂、神経系の情報伝達、免疫の基礎も理解する。	1年・前期	15	1	○			○				○	
○			物理学	力学や光学、エネルギーの原則や法則を理解し、様々な事象での法則や関係性が考えられる。	1年・前期	15	1	○			○				○	
○			生化学	生体構成成分と構造を理解する。それらが生体内でどのように働き、生命活動を維持・制御しているのかを理解し、説明できるようになる。また、水と電解質についても同様に理解し、説明できるようになる。	1年・前期	15	1	○			○				○	
○			生命倫理学	生命をめぐる様々な倫理的問題について、基本的な事柄を説明できるようになる。また、生命をめぐる様々な倫理的問題について、多様な観点から考察できる。さらに、生命をめぐる様々な倫理的問題について、自ら主体的に考察できるようになる。	1年・前期	30	2	○			○				○	

○	英語	四技能(読む・書く・聞く・話す)をバランスよく学習することで、自ら発話するとともに、設問にも積極的に解答できるようになる。	1年・前期	30	2	○		○		○
○	英会話	四技能(読む・書く・聞く・話す)をバランスよく学習することで、自ら発話するとともに、設問にも積極的に解答できるようになる。	1年・後期	30	1	○		○		○
○	言語表現学	日本語の表現について基本的な知識を確認し、未習の新知识に加え、応用する力を養う。また文章表現の持つ意味と重要性を理解する。さらにコミュニケーションスキルとしての文章表現力のレベルアップを図り、待遇表現・ジャンル別表現・行動別表現の力量向上を目指す。	2年・前期	30	2	○		○		○
○	解剖学	生理学・運動学・神経学などの学習事項と合わせて、正常な人体の構造と機能が把握できるようになる。また解剖学の知識を用いて、身体現象や病態をある程度説明できるようになる。	1年・通年	60	2	○		○		○
○	表面解剖学Ⅰ	骨の構造と分類、骨吸収と骨形成、関節の構造と分類を説明できる。また各骨の名称と各骨の部位、各骨の構造と関節、靭帯を説明できるようになる。	1年・前期	30	1	○		○		○
○	表面解剖学Ⅱ	理学療法の基本となる運動を理解する上で、筋の機能解剖の習得は必須となる。本講義では、筋の配置と作用を理解するために、触診を通して筋の機能解剖を習得することを目指す。	1年・後期	30	1		○	○		○
○	生理学	理学療法分野で必要となる生理学的な基本知識の獲得を第一目標とし、パラメディカル、コメディカルとして医師とともにリハビリテーションを行える人材の養成にまで寄与できるような講義を考えている。	1年・通年	60	2	○		○		○
○	生理学演習Ⅰ	「細胞」、「神経系」、「循環」、「呼吸」、「消化と吸収」、「内分泌」について、それぞれの機能について理解する。	1年・後期	30	1		○	○		○
○	生理学演習Ⅱ	①神経細胞や骨格筋細胞の特徴、ならびに、②骨格筋細胞の収縮調整機序を理解すること、また、③骨格筋と心筋や内臓筋(平滑筋)の運動制御機構の違いについて理解すること、さらに、④体全体の制御機構の代表として、血圧の調節機序、腎臓の働き(電解質の調節)、協調運動の調節機序を理解することを目指す。	2年・前期	60	2		○	○		○
○	神経学	①神経細胞と神経組織に関する解剖、②神経細胞および神経組織の機能、③神経症候に関する用語の理解、④神経学的評価方法等について、その意義を理解し説明できるようになる。	1年・後期	30	1	○		○		○
○	神経学演習	末梢神経と中枢神経の機能と構造を理解する。末梢神経障害と中枢神経障害の障害構造を理解する。	1年・後期	30	1		○	○		○
○	人間発達学	発達に関する基本的な考え方について述べるができる。また、身体の発達、運動機能の発達、感覚・知覚の発達、認知機能の発達、社会性の発達(母子関係、仲間関係の発達)について、その概要を述べるができる。	2年・後期	30	1	○		○		○
○	心理学	感覚・知覚、記憶、学習、動機づけといった心の働きについて、その基本的な特徴を述べるができる。	1年・前期	30	2	○		○		○
○	臨床心理学	ストレスと適応との関連、パーソナリティや知能といった個人差、心理学的介入としての心理療法について、その概要を述べるができる。	1年・後期	30	1	○		○		○

○		臨床薬学	臨床薬理学総論では、生体での薬物の作用様式(薬物作用学)と生体内での薬物の動態(薬物動態学)について学ぶ。各論として、自律神経作用薬やその作用を遮断する薬物、心臓、血管や腎臓に作用する薬物、統合失調治療薬や抗うつ薬、抗炎症薬・鎮痛薬および糖尿病治療薬の臨床薬理について学ぶ。	3年・後期	15	1	○		○		○
○		臨床医学	早期離床の重要性が浸透し、急性期における理学療法の重要性が認知されているが、高リスク症例を扱う理学療法士にとって、急変症例への対応を学ぶ必要性が増している。そこで、心肺蘇生について実技を含めて学ぶ。また、フレイルやサルコペニアといった虚弱高齢者への理学療法のニーズが高まっていることから、介護予防に関する基礎について学ぶ。	2年・前期	30	1	○		○		○
○		栄養学	リハビリテーションにおける栄養知識について理解し、高齢者、疾病者および障害者に対する栄養療法の基礎を学ぶ。また、フレイルやサルコペニア等の病態に対する栄養療法、さらにはリハビリテーションの対象疾患を有する症例に対する栄養療法を学ぶ。	3年・前期	15	1	○		○		○
○		病理学	本病理学授業では、病変や疾患がどのような原因で起こり、ヒトの体にどのような変化を生じ、どのように経過し最後にどうなるかということを経験知識として身につけて頂くことを学習目標としている。	1年・後期	30	1	○		○		○
○		運動学	力学・解剖学・生理学を基礎に全身の関節の形態・構造、筋肉の作用を学び、人体の筋や動作の名称、機能を理解する。さらに、各関節の運動あるいは協調性を理解し、姿勢・歩行について基本的な用語を用いることができることを目標とする。	1年・通年	60	4	○		○		○
○		運動学演習	筋の起始・停止・走行・作用を答えることが出来る。基本動作について生体力学的に述べることが出来るようになる。	1年・後期	30	1		○	○		○
○		臨床運動学	運動学、解剖学、生理学などで学習した基礎的事項を説明するとともに、臨床で遭遇する疾患や現象について運動学的観点から説明することができる。	2年・前期	30	1	○		○		○
○		整形外科学	整形外科領域疾患の病態および治療法に関する知識の習得を目標とする。	2年・通年	60	2	○		○		○
○		神経内科学	中枢疾患や神経筋疾患の症状、病理および病態を理解するために、解剖学・生理学の基礎を復習し、各種疾患について理解できる。また国家試験に出題されるレベルの知識の習得を目指す。	2年・通年	60	2	○		○		○
○		精神医学	精神疾患についての知識を理解する。また、実践の場で役立つ考え方を理解する。	2年・後期	15	1	○		○		○
○		内科学	代表的な内科的疾患の概要とその特徴、治療について理解できる。	2年・後期	15	1	○		○		○
○		老年医学	慢性的疾患を持つ事が多い高齢者に対するリハビリテーションを行う上で臨床士のようなことに注意しなければいけないが、しっかりと身につくようにする。近年、認知症に関する社会的関心や問題意識が、非常に高まっており、今後注目される分野である。この分野での最新の脳科学の成果や認知症リハビリテーションの先進的取り組みについても十分に知り実際に活かせるようにする。また、国家試験に必要な高齢者の医学的知識についても十分身につくようにする。	2年・前期	15	1	○		○		○

○		リハビリテーション概論	リハビリテーションに関わる各種定義、障害の分類、リハビリテーション関連職種について説明できる。	1年・前期	30	2	○		○	○			
○		社会福祉学	社会福祉関係の用語理解のみにとどまらず、社会福祉の考え方とその意義を理解する。そのために、社会福祉の歴史的成立、社会福祉サービスと各種の制度理解を題材に専門職が備えるべき基礎的な知識と意識、態度の向上を目指す。	2年・前期	30	2	○		○			○	
○		運動療法概論	運動療法の概念を説明できるようにする。基本的な運動療法について説明できるようにする。模擬患者に対して根拠を持って運動処方ができるようにする。	2年・後期	30	2	○		○			○	
○		理学療法概論	理学療法に関する事項について全般的に講義し、理学療法に対する理解を深める。また、医療従事者としての理学療法士の役割、具体的な業務内容などについて理解できる。理学療法に関係する法規・職業倫理の重要性について理解でき、今後それらに準じて実習に臨むことができるようにする。理学療法に関する用語を習得し、共通言語として理解できる。	1年・後期	30	1	○		○			○	
○		日常生活動作学	Barthel index、FIMを使用できる。脳卒中などの疾患に対して適切に福祉用具が選択できるようになる。また脳卒中などの疾患に対して適切にトランスファーが行え、注意点を説明できるようになる。住宅環境整備のポイントが説明でき、日常生活活動の概念・評価・訓練を学ぶことを通して、障害を整理することができるようになる。	2年・前期	30	2	○		○			○	
○		日常生活動作学実習	動作分析について理解できる。各疾患のADLについて理解できる。介助技術について理解できる。	2年・後期	30	2			○	○			○
○		理学療法研究方法論	研究のタイプやその特徴・対象者の選択方法や評価・観察因子の設定を理解する。測定方法や測定の誤差について理解する。研究における文献検索の重要性や方法を理解する。検査の妥当性を示す指標について理解する。2要因分散分析、重回帰分析を行うことができるようにする。	2年・後期	30	1	○		○			○	○
○		理学療法管理学	質の高い理学療法を提供するため、保健、医療、福祉に関する制度(医療保険・介護保険制度を含む)の理解、組織運営に関するマネジメント能力を養うとともに、理学療法倫理、理学療法教育についての理解を深める。	3年・後期	30	2	○		○			○	
○		理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価とその意義について理解し、理学療法評価の基礎及び形態計測・関節可動域検査について実習する。	1年・後期	30	1	○		○			○	
○		理学療法評価学Ⅱ	理学療法評価における筋力について理解し、その筋力評価方法について実習する。	2年・前期	30	1	○		○			○	
○		理学療法評価学Ⅲ	中枢神経疾患症例に対する片麻痺検査、筋緊張、感覚障害、深部腱反射および病的反射、脳神経検査、協調性検査の検査の意義を習得し、実技を通して手技を学ぶ。また、疼痛の検査方法とその判定方法について学ぶ。	2年・前期	30	1	○		○			○	
○		理学療法評価学Ⅳ	姿勢反射、整形外科テスト、高次脳機能検査、言語および嚥下検査に関する基礎知識の習得と、実技を通して手技を学ぶ。	2年・後期	30	1	○		○			○	

○		理学療法評価学Ⅴ	適切な理学療法を実施するには、X線所見、CTおよびMRI所見等の画像を読影することや、血液検査所見から全身状態を把握する必要である。そこで、それらの基礎知識の習得と実際の症例の所見を診ながら理解することを目的とする。	2年・後期	30	1	○		○	○			
○		理学療法評価学実習	理学療法評価学Ⅰ～Ⅴで学習した検査手技を復習し、再現性の高い検査方法を修得できるようにすることを目的とする。	2年・後期	45	1			○	○		○	
○		医療安全管理学	疾患を有した高齢者に対して理学療法を実施する際、様々なリスクを合併している可能性が高い。そこで、急変時に対応できるよう、意識障害や生命徴候(バイタルサイン)の判定や感染症について学習し、吸引吸痰の方法について実技を通して学ぶ。	2年・通年	30	1	○			○		○	○
○		臨床評価学Ⅰ	臨床実習において必要となる症例とのコミュニケーション能力や接遇、医療面接の手順、検査測定を実施する際のオリエンテーションなど円滑に行う方法について説明する。また、評価実習で必要となる各検査測定の復習やバイタルサインの診かた、各種歩行補助具(杖や装具など)の知識と扱い方、基本動作の介助方法などについて習得する。	2年・通年	45	1			○	○		○	
○		臨床評価学Ⅱ	評価実習で求められる医療面接、動作分析、患者情報や検査測定結果をもとにした統合と解釈の考え方、症例報告書の書き方などについて習得する。	3年・通年	90	2			○	○		○	
○		義肢装具学Ⅰ	切断について、原因とその疾病特性を理解する。切断部位の名称などを理解する。また一般的な切断者の特徴、さらに小児切断・高齢者切断者の特徴を理解し、近年の内分泌疾患との関連性も理解する。義足の適応・不適応を理解する。各切断部位に処方される義足の基礎的構成要素を把握し、その目的・種類・効果について理解する。また各義足のアライメントの特徴・チェック方法などを理解する。切断リハチームの一員として、理学療法士の役割を理解し、切断者のリハビリテーションの目的、その流れを把握する。	3年・前期	30	1	○			○			○
○		義肢装具学Ⅱ	装具の種類や特性についての基本的事項と理学療法における役割を理解することができる。また、装具の適応とその選択についての説明ができ、模擬症例に対する適切な装具を選択ができる。	3年・前期	30	2	○			○			○
○		小児・発達心理学療法学	小児に対する理学療法は成長・発達の要因が重要であり、これらを含めた適切な理学療法を選択する能力が必要となる。また、脳性麻痺をはじめ小児疾患、とりわけ運動機能障害が日常生活を制限し、成長・発達の障害につながる可能性があることを学習することを目的としている。	3年・通年	30	2	○			○			○
○		運動器障害理学療法学Ⅰ	運動器系に関わる疾患の機能障害とその回復過程、及び合併症について学ぶ。また身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を理解し、各種疾患の理学療法を学ぶ。	3年・通年	30	1	○			○		○	○
○		運動器障害理学療法学Ⅱ	運動器系に関わる疾患の機能障害とその回復過程、及び合併症について学ぶ。また身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を理解し、各種疾患の理学療法を学ぶ。	3年・通年	30	1	○			○		○	○
○		運動器障害理学療法学Ⅲ	運動器系に関わる疾患の機能障害とその回復過程、及び合併症について学ぶ。また身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を理解し、各種疾患の理学療法を学ぶ。	3年・通年	30	1	○		○	○		○	○

○		内部障害理学療法学Ⅰ	学習者は、慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者に対する呼吸理学療法を実施するための評価や運動療法および手技を理解するために、それらについて図・口頭・筆記等で説明できることを目標とする。また、呼吸理学療法について実技を通して学ぶ。	3年・通年	30	1	○		○		○			
○		内部障害理学療法学Ⅱ	循環器の解剖と生理（主に運動時の循環反応）・循環器疾患の病態と治療・運動機能評価（主に運動負荷試験）の目的と方法、心電図の診かたの基礎、各種異常波形の診断について知識を習得し理解を深める。また、症例検討を通して、理学療法プログラムの立案方法を学ぶ。	3年・通年	30	1	○		○				○	
○		内部障害理学療法学Ⅲ	代謝性疾患（主として糖尿病）、肥満、腎疾患および癌に対する理学療法について、それらの基礎と臨床応用について学ぶ。	3年・通年	30	1			○	○		○	○	
○		中枢神経障害理学療法学Ⅰ	症例検討を行い、リスク管理のもと評価の実施とPTプログラムの立案を行う。また、PTプログラムの実施に繋げる。	3年・通年	15	1	○		○			○		
○		中枢神経障害理学療法学Ⅱ	脳血管障害の病態を解剖学、生理学的知識を元に捉える。また、病態や画像所見から起こりうる症状を予測し、必要な評価項目の立案に繋げる。	3年・通年	15	1	○			○		○	○	
○		中枢神経障害理学療法学Ⅲ	パーキンソン病等の神経難病障害に対する理学療法について学習する。また症例検討を行いながらリスク管理のもとPTプログラムの立案に繋げる。	3年・通年	30	1			○	○		○	○	
○		物理療法学	各生理的状態を理解する。また、適応・禁忌を踏まえて、疾患ごとに適切に使用できるようになる。	2年・後期	30	2	○			○			○	
○		理学療法演習Ⅰ	実験計画、文献検索、発表方法、論文作成までの流れを理解し、行動に移すことが出来る。	3年・通年	90	3			○		○		○	
○		理学療法演習Ⅱ	1年次から3年次までに学習する内容について、再度、復習する機会とともに、卒業に向けて総合的に再度学習するものとする。	4年・後期	120	4			○		○		○	
○		理学療法演習Ⅲ	1年次から3年次までに学習する内容について、再度、復習する機会とともに、卒業に向けて総合的に再度学習するものとする。	4年・通年	150	5			○		○		○	
○		地域理学療法学Ⅰ	人々が安全に生活できるように、心身機能・能力及び生活機能などをICFなどによって客観的に評価し分析し、それに基づいて対応を図る必要がある。地域における理学療法士の役割と重要性を理解できる。	3年・後期	30	1	○			○			○	
○		地域理学療法学Ⅱ	人々が安全に生活できるように、心身機能・能力及び生活機能などをICFなどによって客観的に評価し分析し、それに基づいて対応を図る必要がある。テクニカルエイドや住環境に至るまでの知識と技術を持つことを目標に、医療・福祉制度による諸々のサービスの利用の理解を深めることを目標とする。	3年・通年	30	1	○			○		○	○	
○		予防理学療法学	高齢者における要介護状態になる要因と介護予防の必要性について学ぶ。地域での理学療法士の役割を理解し、高齢者の身体特性に合わせた運動の実施について学ぶ。	3年・前期	30	1	○			○			○	
○		見学実習	医療施設などにおける理学療法士の業務内容と役割について理解する。患者様の持つ様々な障害の全体像を理解する。理学療法士を学ぶ学生にふさわしい人間性を習得する。	1年・後期	45	1			○		○		○	○
○		評価実習Ⅰ	学校で学習した各評価項目（関節可動域検査、徒手筋力検査など）を、実際の臨床場面で体験し学習する。各評価項目に対して、適切かつ信頼性のある検査及び測定の方法を習得する。	2年・後期	90	2			○		○		○	○

○		評価実習Ⅱ	障害を有する患者様に対して適切な評価項目を選択し、多角的な視点で評価を実施する能力を習得する。得られた評価の結果から、問題点を抽出する能力を習得する。	3年・後期	180	4				○	○	○	○
○		地域包括ケア実習	地域包括ケアの拡充に伴い、医療福祉分野における理学療法士の役割が重要となっている。そこで、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割と社会ニーズについて習得する。	3年・後期	45	1				○	○	○	○
○		総合実習	得られた評価の結果をもとに適切なプログラムを立案し、臨床実習指導者の監督下で適切な治療・指導方法を習得する。各臨床実習施設におけるリハビリテーションチームの位置付け、またチーム内での理学療法士の役割について学習する。専門職としての「理学療法士」の姿勢、能力を習得する。	4年・前期	540	12				○	○	○	○
合計			76(実習含め) 科目	3405単位時間(125単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：		1学年の学期区分	2期
卒業認定は全ての授業科目及び実習の単位を修得した学生について、各学科の学		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科) 令和3年度3年生																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			健康科学	わが国の健康と病気に関する背景を理解でき、健康と体力、運動との関係について正しく理解できるようになる。また健康を維持増進するための運動に取り組み、仲間と積極的にコミュニケーションをとることができるようになる。	1年・前期	30	1			○	○			○		
○			コミュニケーション学	①言葉遣いや身だしなみ等、社会人として当たり前の礼儀を学び、自然と実行できるように習慣づける。②医療従事者として患者さんの心に寄り添った接し方ができ、信頼関係を築くコミュニケーションの基本を身につける。③今後経験するであろう様々な困難にもくじけることなく、前向きに考えられる思考を身につける。	2年・前期	30	2	○			○				○	
○			基礎統計学	記述統計や推測統計の基本的な方法について理解し、それを利用することができる。	1年・前期	30	2	○			○				○	
○			情報処理	Word、Excelの基本操作を習得することを第一の目的とする。さらに必要な情報をインターネットから探し出し、それらのデータをどのように活用し分析するのか情報処理の作業デザインを考えられるようになる事を目標とする。	1年・前期	30	1		○		○				○	
○			社会学	身近で理解が平易なテーマを基礎としながら、社会経済の事象を単体で捉えるのではなく、相互に関連させながら、問題の発現メカニズムを理解するとともに、あるべき社会像をみいだす為の基礎知識を習得することを目的とする。	1年・前期	30	2	○			○				○	
○			生物学	DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成されることと、それに関与する細胞内小器官も役割を理解する。また、ある個人のDNAも配列を明らかにすることで、その人がかかり易い病気のある程度予測することが出来る時代になってきていることを理解する。また細胞分裂、神経系の情報伝達、免疫の基礎も理解する。	1年・前期	15	1	○			○				○	
○			物理学	力学や光学、エネルギーの原則や法則を理解し、様々な事象での法則や関係性が考えられる。	1年・前期	15	1	○			○				○	
○			生命倫理学	生命をめぐる様々な倫理的問題について、基本的な事柄を説明できるようになる。また、生命をめぐる様々な倫理的問題について、多様な観点から考察できる。さらに、生命をめぐる様々な倫理的問題について、自ら主体的に考察できるようになる。	1年・前期	30	2	○			○				○	
○			英語	四技能(読む・書く・聞く・話す)をバランスよく学習することで、自ら発話するとともに、設問にも積極的に解答できるようになる。	1年・前期	30	2	○			○				○	

○		英会話	四技能(読む・書く・聞く・話す)をバランスよく学習することで、自ら発話するとともに、設問にも積極的に解答できるようになる。	1年・後期	30	1	○		○		○	
○		言語表現学	日本語の表現について基本的な知識を確認し、未習の新知识に加え、応用する力を養う。また文章表現の持つ意味と重要性を理解する。さらにコミュニケーションスキルとしての文章表現力のレベルアップを図り、待遇表現・ジャンル別表現・行動別表現の力量向上を目指す。	2年・前期	30	2	○		○		○	
○		解剖学	生理学・運動学・神経学などの学習事項と合わせて、正常な人体の構造と機能が把握できるようになる。また解剖学の知識を用いて、身体現象や病態をある程度説明できるようになる。	1年・通年	60	2	○		○		○	
○		表面解剖学Ⅰ	骨の構造と分類、骨吸収と骨形成、関節の構造と分類を説明できる。また各骨の名称と各骨の部位、各骨の構造と関節、靭帯を説明できるようになる。	1年・前期	30	1	○		○		○	
○		表面解剖学Ⅱ	理学療法の基本となる運動を理解する上で、筋の機能解剖の習得は必須となる。本講義では、筋の配置と作用を理解するために、触診を通して筋の機能解剖を習得することを目指す。	1年・後期	30	1		○	○		○	
○		生理学	理学療法分野で必要となる生理学的な基本知識の獲得を第一目標とし、パラメディカル、コメディカルとして医師とともにリハビリテーションを行える人材の養成にまで寄与できるような講義を考えている。	1年・通年	60	2	○		○		○	
○		生理学演習Ⅰ	「細胞」、「神経系」、「循環」、「呼吸」、「消化と吸収」、「内分泌」について、それぞれの機能について理解する。	1年・後期	30	1		○	○		○	
○		生理学演習Ⅱ	①神経細胞や骨格筋細胞の特徴、ならびに、②骨格筋細胞の収縮調整機序を理解すること、また、③骨格筋と心筋や内臓筋(平滑筋)の運動制御機構の違いについて理解すること、さらに、④体全体の制御機構の代表として、血圧の調節機序、腎臓の働き(電解質の調節)、協調運動の調節機序を理解することを目指す。	2年・前期	60	2		○	○		○	
○		神経学	①神経細胞と神経組織に関する解剖、②神経細胞および神経組織の機能、③神経症候に関する用語の理解、④神経学的評価方法等について、その意義を理解し説明できるようになる。	1年・後期	30	1	○		○		○	
○		神経学演習	末梢神経と中枢神経の機能と構造を理解する。末梢神経障害と中枢神経障害の障害構造を理解する。	1年・後期	30	1		○	○		○	
○		人間発達学	発達に関する基本的な考え方について述べるができる。また、身体の発達、運動機能の発達、感覚・知覚の発達、認知機能の発達、社会性の発達(母子関係、仲間関係の発達)について、その概要を述べるができる。	2年・後期	30	1	○		○		○	
○		心理学	感覚・知覚、記憶、学習、動機づけといった心の働きについて、その基本的な特徴を述べるができる。	1年・前期	30	2	○		○		○	
○		臨床心理学	ストレスと適応との関連、パーソナリティや知能といった個人差、心理学的介入としての心理療法について、その概要を述べるができる。	1年・後期	30	1	○		○		○	

○		老年医学	慢性の疾患を持つ事が多い高齢者に対するリハビリテーションを行う上で臨床上どのようなことに注意しなければいけないかが、しっかりと身につくようにする。近年、認知症に関する社会的関心や問題意識が、非常に高まっており、今後注目される分野である。この分野での最新の脳科学の成果や認知症リハビリテーションの先進的取り組みについても十分に知り実際に活かせるようにする。また、国家試験に必要な高齢者の医学的知識についても十分身につくようにする。	2年・前期	15	1	○		○		○	
○		リハビリテーション概論	リハビリテーションに関わる各種定義、障害の分類、リハビリテーション関連職種について説明できる。	1年・前期	30	2	○		○		○	
○		社会福祉学	社会福祉関係の用語理解のみにとどまらず、社会福祉の考え方とその意義を理解する。そのために、社会福祉の歴史的成立、社会福祉サービスと各種の制度理解を題材に専門職が備えるべき基礎的な知識と意識、態度の向上を目指す。	2年・前期	30	2	○		○		○	
○		運動療法概論	運動療法の概念を説明できるようにする。基本的な運動療法について説明できるようにする。模擬患者に対して根拠を持って運動処方ができるようにする。	2年・後期	30	2	○		○		○	
○		理学療法概論	理学療法に関する事項について全般的に講義し、理学療法に対する理解を深める。また、医療従事者としての理学療法士の役割、具体的な業務内容などについて理解できる。理学療法に関係する法規・職業倫理の重要性について理解でき、今後それらに準じて実習に臨むことができるようにする。理学療法に関する用語を習得し、共通言語として理解できる。	1年・後期	30	2	○		○		○	
○		日常生活動作学	Barthel index、FIMを使用できる。脳卒中などの疾患に対して適切に福祉用具が選択できるようになる。また脳卒中などの疾患に対して適切にトランスファーが行え、注意点を説明できるようになる。住宅環境整備のポイントが説明でき、日常生活活動の概念・評価・訓練を学ぶことを通して、障害を整理することができるようになる。	2年・前期	30	2	○		○		○	
○		日常生活動作学実習	動作分析について理解できる。各疾患のADLについて理解できる。介助技術について理解できる。	2年・後期	30	2			○	○		○
○		理学療法研究方法論	研究のタイプやその特徴・対象者の選択方法や評価・観察因子の設定を理解する。測定方法や測定の誤差について理解する。研究における文献検索の重要性や方法を理解する。検査の妥当性を示す指標について理解する。2要因分散分析、重回帰分析を行うことができるようにする。	2年・後期	30	1	○		○		○	○
○		理学療法管理学	質の高い理学療法を提供するため、保健、医療、福祉に関する制度(医療保険・介護保険制度を含む)の理解、組織運営に関するマネジメント能力を養うとともに、理学療法倫理、理学療法教育についての理解を深める。	1年・後期	30	2	○		○		○	
○		理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価とその意義について理解し、理学療法評価の基礎及び形態計測・関節可動域検査について実習する。	1年・後期	30	1	○		○		○	
○		理学療法評価学Ⅱ	理学療法評価における筋力について理解し、その筋力評価方法について実習する。	2年・前期	30	1	○		○		○	

○		理学療法評価学Ⅲ	中枢神経疾患症例に対する片麻痺検査、筋緊張、感覚障害、深部腱反射および病的反射、脳神経検査、協調性検査の検査の意義を習得し、実技を通して手技を学ぶ。また、疼痛の検査方法とその判定方法について学ぶ。	2年・前期	30	1	○		○	○		
○		理学療法評価学Ⅳ	姿勢反射、整形外科テスト、高次脳機能検査、言語および嚥下検査に関する基礎知識の習得と、実技を通して手技を学ぶ。	2年・後期	30	1	○		○	○		
○		理学療法評価学Ⅴ	適切な理学療法を実施するには、X線所見、CTおよびMRI所見等の画像を読影することや、血液検査所見から全身状態を把握する必要である。そこで、それらの基礎知識の習得と実際の症例の所見を診ながら理解することを目的とする	2年・後期	30	1	○		○	○		
○		理学療法評価学実習	理学療法評価学Ⅰ～Ⅴで学習した検査手技を復習し、再現性の高い検査方法を修得できるようにすることを目的とする。	2年・後期	45	1			○	○		○
○		医療安全管理学	疾患を有した高齢者に対して理学療法を実施する際、様々なリスクを合併している可能性が高い。そこで、急変時に対応できるよう、意識障害や生命徴候(バイタルサイン)の判定や感染症について学習し、吸引吸痰の方法について実技を通して学ぶ。	2年・通年	30	1	○		○	○		○
○		臨床評価学Ⅰ	臨床実習において必要となる症例とのコミュニケーション能力や接遇、医療面接の手順、検査測定を実施する際のオリエンテーションなど円滑に行う方法について説明する。また、評価実習で必要となる各検査測定の復習やバイタルサインの診かた、各種歩行補助具(杖や装具など)の知識と扱い方、基本動作の介助方法などについて習得する。	2年・通年	45	1			○	○		○
○		臨床評価学Ⅱ	評価実習で求められる医療面接、動作分析、患者情報や検査測定結果をもとにした統合と解釈の考え方、症例報告書の書き方などについて習得する。	3年・通年	90	2			○	○		○
○		義肢装具学Ⅰ	切断について、原因とその疾病特性を理解する。切断部位の名称などを理解する。また一般的な切断者の特徴、さらに小児切断・高齢者切断者の特徴を理解し、近年の内分疾患との関連性も理解する。義足の適応・不適応を理解する。各切断部位に処方される義足の基礎的構成要素を把握し、その目的・種類・効果について理解する。また各義足のアライメントの特徴・チェック方法などを理解する。切断リハチームの一員として、理学療法士の役割を理解し、切断者のリハビリテーションの目的、その流れを把握する。	3年・前期	30	1	○		○			○
○		義肢装具学Ⅱ	装具の種類や特性についての基本的事項と理学療法における役割を理解することができる。また、装具の適応とその選択についての説明ができ、模擬症例に対する適切な装具を選択ができる。	3年・前期	30	2	○		○			○
○		小児・発達系理学療法学	小児に対する理学療法は成長・発達の要因が重要であり、これらを含めた適切な理学療法を選択する能力が必要となる。また、脳性麻痺をはじめ小児疾患、とりわけ運動機能障害が日常生活を制限し、成長・発達の障害につながる可能性があることを学習することを目的としている。	3年・通年	30	2	○		○			○

○	運動器障害理学療法学Ⅰ	運動器系に関わる疾患の機能障害とその回復過程、及び合併症について学ぶ。また身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を理解し、各種疾患の理学療法を学ぶ。	3年・通年	30	1	○		○	○	○		
○	運動器障害理学療法学Ⅱ	運動器系に関わる疾患の機能障害とその回復過程、及び合併症について学ぶ。また身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を理解し、各種疾患の理学療法を学ぶ。	3年・通年	30	1	○		○	○	○		
○	運動器障害理学療法学Ⅲ	運動器系に関わる疾患の機能障害とその回復過程、及び合併症について学ぶ。また身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を理解し、各種疾患の理学療法を学ぶ。	3年・通年	30	1	○		○	○	○		
○	内部障害理学療法学Ⅰ	学習者は、慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者に対する呼吸理学療法を実施するための評価や運動療法および手技を理解するために、それらについて図・口頭・筆記等で説明できることを目標とする。また、呼吸理学療法について実技を通して学ぶ。	3年・通年	30	1	○		○	○	○		
○	内部障害理学療法学Ⅱ	循環器の解剖と生理(主に運動時の循環反応)・循環器疾患の病態と治療・運動機能評価(主に運動負荷試験)の目的と方法、心電図の診かたの基礎、各種異常波形の診断について知識を習得し理解を深める。また、症例検討を通して、理学療法プログラムの立案方法を学ぶ。	3年・通年	30	1	○		○		○		
○	内部障害理学療法学Ⅲ	代謝性疾患(主として糖尿病)、肥満、腎疾患および癌に対する理学療法について、それらの基礎と臨床応用について学ぶ。	3年・通年	30	1			○	○	○	○	
○	中枢神経障害理学療法学Ⅰ	症例検討を行い、リスク管理のもと評価の実施とPTプログラムの立案を行う。また、PTプログラムの実施に繋げる。	3年・通年	15	1	○		○		○		
○	中枢神経障害理学療法学Ⅱ	脳血管障害の病態を解剖学、生理学的知識を元に捉える。また、病態や画像所見から起こりうる症状を予測し、必要な評価項目の立案に繋げる。	3年・通年	15	1	○		○		○	○	
○	中枢神経障害理学療法学Ⅲ	パーキンソン病等の神経難病障害に対する理学療法について学習する。また症例検討を行いながらリスク管理のもとPTプログラムの立案に繋げる。	3年・通年	30	1			○	○	○	○	
○	物理療法学	各生理的状態を理解する。また、適応・禁忌を踏まえて、疾患ごとに適切に使用できるようになる。	2年・後期	30	2	○		○	○			○
○	理学療法演習Ⅰ	実験計画、文献検索、発表方法、論文作成までの流れを理解し、行動に移すことが出来る。	3年・通年	120	4			○	○		○	
○	理学療法演習Ⅱ	1年次から3年次までに学習する内容について、再度、復習する機会とともに、卒業に向けて総合的に再度学習するものとする。	4年・後期	120	4			○	○		○	
○	理学療法演習Ⅲ	1年次から3年次までに学習する内容について、再度、復習する機会とともに、卒業に向けて総合的に再度学習するものとする。	4年・後期	150	5			○	○		○	
○	地域理学療法学Ⅰ	人々が安全に生活できるように、心身機能・能力及び生活機能などをICFなどによって客観的に評価し分析し、それに基づいて対応を図る必要がある。地域における理学療法士の役割と重要性を理解できる。	3年・後期	30	2	○		○			○	

○	地域理学療法 学Ⅱ	人々が安全に生活できるように、心身機能・能力及び生活機能などをICFなどによって客観的に評価し分析し、それに基づいて対応を図る必要がある。テクニカルエイドや住環境に至るまでの知識と技術を持つことを目標に、医療・福祉制度による諸々のサービスの利用の理解を深めることを目標とする。	3年・通年	15	1	○	○	○	○
○	予防理学療法 学	高齢者における要介護状態になる要因と介護予防の必要性について学ぶ。地域での理学療法士の役割を理解し、高齢者の身体特性に合わせた運動の実施について学ぶ。	3年・前期	30	1	○	○	○	○
○	見学実習	医療施設などにおける理学療法士の業務内容と役割について理解する。患者様の持つ様々な障害の全体像を理解する。理学療法士を学ぶ学生にふさわしい人間性を習得する。	1年・後期	45	1	○	○	○	○
○	評価実習Ⅰ	学校で学習した各評価項目（関節可動域検査、徒手筋力検査など）を、実際の臨床場面で体験し学習する。各評価項目に対して、適切かつ信頼性のある検査及び測定の方法を習得する。	2年・後期	45	1	○	○	○	○
○	評価実習Ⅱ	障害を有する患者様に対して適切な評価項目を選択し、多角的な視点で評価を実施する能力を習得する。得られた評価の結果から、問題点を抽出する能力を習得する。	3年・後期	180	4	○	○	○	○
○	地域包括ケア 実習	地域包括ケアの拡充に伴い、医療福祉分野における理学療法士の役割が重要となっている。そこで、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割と社会ニーズについて習得する。	3年・後期	90	2	○	○	○	○
○	総合実習	評価の結果をもとに適切なプログラムを作成し、臨床実習指導者の監督下で適切な治療、訓練方法を習得する。	4年・前期	540	12	○	○	○	○
合計		75(実習含む) 科目	3420単位時間(126単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：	1学年の学期区分	2期
卒業認定は全ての授業科目及び実習の単位を修得した学生について、各学科の学	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科) 令和3年度4年生																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			健康科学	体力、健康、肥満、心身ストレスなどを多面的にとらえ、現代社会における健康問題、健康の捉え方、健康を保持・増進するための運動との関係を理論的に学ぶ。	1年・前期	30	1			○	○			○		
○			コミュニケーション学	人間として、また社会人としての欠けてはならない基本的マナーを身に付ける。組織の中の一員として、組織を動かすコミュニケーションの重要性を理解し、自分の立場・役割を認識しながら、職場の中で良い人間関係を築くために心掛けなければならないポイントを学ぶ。	2年・前期	30	2	○			○				○	
○			基礎統計学	リハビリテーションに関する研究においてよく使われている統計学的方法について紹介します。	1年・前期	30	2	○			○				○	
○			情報処理	情報処理の授業を通じて、今後の学校生活や社会で必要となるパソコンやネットワーク、アプリケーションソフトの基礎知識及び技術を習得することを目標とする。	1年・前期	30	1		○		○				○	
○			社会学	本講義では、「高齢化」「資源・環境」の2つのキーワードから、現代社会の問題を紐解いていくことを目的とする。具体的には「高齢化」については、「買い物難民」「社会保障制度」を、「資源・環境」については、「消費と廃棄」「飢餓と飽食」を取り上げます。必要に応じて、各省庁が刊行する『白書』のほか、新聞記事や映像資料（ドキュメンタリー）を活用する。	1年・前期	30	2	○			○				○	
○			生物学	「生命」について、進化論的視点から解説し、さらに「生命」を構成する最小単位である「細胞」の構造と機能（特に遺伝子に着目）について、詳細な解説する。	1年・前期	15	1	○			○				○	
○			生化学	生命を維持するために、生体の構成成分を知り、それぞれ生体でどのように働き、生命活動が営まれているのかを理解する。基礎科目としての理解が必須ではあるが、学問としてだけでなく、学生自身の生命活動の営みとしてとらえ、臨床で理学療法士として疾患を考える力の重要性を理解し、習得してほしい。	1年・前期	15	1	○			○				○	
○			物理学	力学的視点で「てこの原理」を考える。位置エネルギーと運動エネルギーについて理解する。	1年・前期	15	1	○			○				○	
○			生命倫理学	生命をめぐる様々な倫理的問題について、基礎的な知識を得て、多様な意見・見方・考え方があることを知ること、またそれらの知識を元に自ら主体的に考察することを目標とする。	1年・前期	30	2	○			○				○	
○			英語	医学用語を英語で学習し語彙力を高め、患者との会話をスムーズにする。また、医学英語の習得は専門書読解に必要であり、文法を理解することでWriting力養成へと導く。	1年・前期	30	2	○			○				○	

○	英会話	医学用語を英語で学習し語彙力を高め、患者との会話をスムーズにする。また、医学英語の習得は専門書読解に必要であり、文法を理解することでWriting力養成へと導く。	1年・後期	30	1	○		○		○	
○	医学英語	今までに習得した英語力をもとにして、医学文献の精読力の向上を目指す。	2年・後期	30	1	○		○		○	
○	言語表現学	受講者のほとんどが、数年後、組織で働き、コミュニケーションが必要とされることから、意志や情報の伝達に必要な表記、文章力を身につける。	2年・前期	30	2	○		○		○	
○	解剖学	プリントを中心に人体構造の中でも特に基本的な項目を中心に講義する。4回の講義の後の確認小テストで、知識の定着を図る。テストは個人とグループで解答を行い、後者は最終成績に加味される。	1年・通年	60	2	○		○		○	
○	解剖学演習	各骨の名称と各骨の部位を説明し、各骨の構造と関節、靭帯を説明できることを目標とする。また骨吸収と骨形成を説明できるようになることを目標とする。	1年・前期	30	1		○	○		○	
○	表面解剖学	理学療法に必要な筋の体表解剖の知識と作用を理解するために、触診を獲得できることを目標とする。	1年・後期	30	1			○	○		○
○	生理学	生理学では、人体の構造とその機能を分子・細胞レベルから器官・個体レベルに至る各階層で理解できるような講義を行なう。このような理解は、人体の構造を主として講義する解剖学と一体となる知識の獲得が不可欠である。	1年・通年	60	2	○		○		○	
○	生理学演習Ⅰ	様々な器官や組織で構成されているヒトの身体の仕組みを学ぶ。身体の正常な働きを理解することにより、病気（身体の正常な働きを保つことができなくなった状態）への理解を深める。	1年・後期	30	1		○	○			○
○	生理学演習Ⅱ	「神経系」の生理機能について、ミクロ及びマクロな視点からの理解を深める。	2年・前期	60	2		○	○			○
○	神経学	神経内科の疾患の全体構造、神経、筋の基本的理解をすることを目標とする。またそれらを踏まえて各種疾病を理解することも目標とする。	1年・後期	30	2	○		○		○	
○	神経学演習	中枢神経の機能解剖から障害を予測できる。中枢神経障害の障害構造を理解して評価について学習できることを目標とする。	1年・後期	30	1		○	○		○	
○	人間発達学	発達に関する基本的な考え方や、身体の発達、運動機能の発達、感覚・知覚の発達、認知機能の発達、社会性の発達（母子関係、仲間関係の発達）について理解することを目標とする。	2年・後期	30	1	○		○			○
○	心理学	人間の最も基本的な心の働きについて、その特徴を紹介します。感覚・知覚、記憶、学習、動機づけといった心の働きについて、その基本的な特徴を述べるができる。	1年・前期	30	2	○		○			○
○	臨床心理学	心理学において個人差や心の適応の問題がどのように扱われているかを紹介します。ストレスと適応との関連、パーソナリティや知能といった個人差、心理学的介入としての心理療法について、その概要を述べるができる。	3年・後期	30	1	○		○			○
○	薬理学	PTとして最低限必要な知識として薬理学を学ぶ。またPTと関連の深い疾患に対して用いられる薬剤、それに対する副作用を学ぶ。	1年・後期	15	1	○		○			○

○		病理学	病変や疾患がどのような原因で起こり、ヒトの体にどのような変化を生じ、どのように経過し、最後にどうなるのかということ为基础知識として身につけることを目標とする。	1年・後期	30	1	○		○		○
○		運動学	力学・解剖学・生理学を基礎に関節の形態・構造、筋肉の作用を学び、動作・機能を理解することを目標とする。さらに、各関節の運動あるいは協調性を理解し、歩行動作について学ぶ。	1年・通年	60	4	○		○		○
○		運動学演習	動作における各関節の動きを生体力学的に考え、人間の身体運動を理解する。また、筋の起始・停止・走行などを確認しながら、その動きを理解していくことを目標とする。	1年・後期	30	1		○	○		○
○		臨床運動学	運動学、解剖学、生理学などで学習した基礎的事項を確認するとともに、臨床で遭遇する疾患や現象との関連性について理解することを目標とする。	2年・前期	30	2	○		○		○
○		整形外科学	整形外科領域疾患の病態および治療法に関する知識の習得を目標とする。	2年・通年	60	4	○		○		○
○		神経内科学	神経内科領域の現場における実際的な興味ある事例を映像を通して学んでいく。国家試験レベルを十分に上回る知識を得ることを目標とする。	2年・前期	60	4	○		○		○
○		精神医学	精神疾患患者への接し方や代表的な精神疾患についての知識を理解する。知識のみではなく、あらゆる実践の場で役に立つ考え方を理解する。	2年・後期	15	1	○		○		○
○		内科学	臨床で特に必要な内科的疾患の概要について把握する。	2年・後期	15	1	○		○		○
○		老年医学	老年者の医学的知識を広くすると共に、臨床で注意すべきことを習得する。また認知症のリハビリテーションについて最新の脳科学の成果や先進的取り組みについても触れていく。	2年・前期	15	1	○		○		○
○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史や理念、チーム医療としての位置づけ、障害の構造やその受容、行政との関わりなどの知識を得ることで、基本的な概念を理解することを目標とする。	1年・前期	30	2	○		○		○
○		社会福祉学	社会福祉における制度や動向、実態を理解する。また社会福祉関係の用語理解のみにとどまらず、社会福祉の考え方とその意義を理解することを目標とする。	2年・前期	30	2	○		○		○
○		運動療法概論	運動療法の基本的概念を理解する。運動の型、筋収縮の様式・特徴を理解する。訓練機器の名称・特徴・使用方法を理解する。筋力訓練や様々な訓練の基本的概念を理解する。	2年・後期	30	2	○		○		○
○		理学療法概論	理学療法に関する総論であり、理学療法の倫理や歴史、法律制度などを理解し、社会における理学療法士の役割や業務内容、理学療法部門の管理、他職種や理学療法対象者とのコミュニケーションなどについて講義する。また、講義の中で、理学療法対象者との接遇について実習を交えながら解説する。	1年・後期	30	2	○		○		○
○		日常生活動作学	日常生活活動の概念・評価・訓練について習得できる。トランスファー（介助技術）と車椅子操作方法を習得できる。各疾患における福祉用具の適応と選択方法について習得できる。社会生活環境について習得できる。	2年・前期	30	2	○		○		○
○		日常生活動作学実習	日常生活活動の概念・評価・訓練について習得できる。トランスファー（介助技術）と車椅子操作方法を習得できる。各疾患における福祉用具の適応と選択方法について習得できる。社会生活環境について習得できる。	2年・後期	30	1		○	○		○

○		理学療法研究方法論	研究を行う意味と目的を理解する。研究のタイプやその特徴を理解する。対象者の選択方法や評価・観察因子の設定を理解する。測定方法や測定の誤差について理解する。研究における文献検索の重要性や方法を理解する。研究の流れを理解する。	2年・後期	30	1	○		○	○	○		
○		検査・測定論 I	理学療法における評価の理解と形態計測が実施できることを目指す。理学療法法の対象となる代表的な障害である関節可動域障害について理解し、その機能障害について考察する。そして関節可動域の評価が実施できることを目指す。	2年・前期	30	1			○	○		○	
○		検査・測定論 II	理学療法の対象となる代表的な障害である筋力低下について理解し、筋力の評価方法について理解する。そしてリハビリテーションを遂行する上で適切な筋力評価実施が出来ることを目指す。	2年・前期	60	2			○	○		○	
○		理学療法評価技術論	理学療法の対象となる障害の構造を理解し、理学療法評価の原理を知り、理学療法評価の意義・目的を理解する。理学療法で用いる評価方法を理解し、適切な評価手段が選択でき、かつ実施ができることを目標とする。	2年・後期	30	2	○			○		○	
○		理学療法評価技術論実習	理学療法の対象となる障害の構造を理解し、理学療法評価の原理を知り、理学療法評価の意義・目的を理解する。理学療法で用いる評価方法を理解し、適切な評価手段が選択でき、かつ実施ができることを目標とする。	2年・後期	30	1			○	○		○	
○		臨床評価学 I	臨床実習において必要となる症例とのコミュニケーション能力や接遇、医療面接の手順、検査測定を実施する際の症例へのオリエンテーション等を円滑に行う方法について説明する。また、評価実習で必要となる各検査測定の復習やバイタルサインの診かた、各種歩行補助具（杖や装具など）の知識と扱い方、基本動作の介助方法等について説明する。	2年・後期	30	1			○	○		○	
○		臨床情報管理論	説明責任に関する必要性、情報管理を行う上での注意点を理解し、診療記録の作成方法を学習する。また、チーム医療は重要であるが、複数の医療従事者が関わることで、事故が起こる可能性も高くなるため、事故が起こる原因を考え、未然に防ぐための方法を理解する。	2年・後期	30	1	○			○		○	○
○		臨床評価学 II	健常者の基本動作について明文化できる。疾患の病因、病態を理解し、患者の訴えから状況を把握するために評価方法の検索を行う過程を説明することができる。評価結果から患者の問題点を抽出することができる。問題点を抽出する過程の明文化、説明をICFにて分類することができる。	3年・通年	30	1			○	○		○	
○		義肢装具学 I	切断者の疫学を学ぶとともに、切断部位の名称などを理解する。また一般的な切断者の特徴、さらに小児切断・高齢者切断者の特徴を理解する。各義足のアライメントの特徴・チェックの方法などを理解する。	3年・前期	15	1	○			○			○
○		義肢装具学 II	装具の目的、種類、効果などの基本的なことを理解する。理学療法士の視点から、臨床場面における装具の適応と選択およびその効果について考え学習する。	3年・前期	30	2	○			○			○
○		小児・発達系理学療法学	理学療法に関わる小児科学の疾患領域について学習する。脳性麻痺・筋ジストロフィーの特徴及び評価、治療を理解することを目標とする。	3年・通年	30	2	○			○			○

○		運動器系理学療法学Ⅰ	整形外科に関わる疾患の機能障害とその回復過程および合併症について学ぶ。また、身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を確認し、各種疾患に対して、PTとしての評価および治療技術を習得する。	3年・前期	15	1	○		○	○	○
		運動器系理学療法学Ⅱ	整形外科に関わる疾患の機能障害とその回復過程および合併症について学ぶ。また、身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を確認し、各種疾患に対して、PTとしての評価および治療技術を習得する。	3年・後期	15	1	○		○	○	○
		運動器系理学療法学実習	整形外科に関わる疾患の機能障害とその回復過程および合併症について学ぶ。また、身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を確認し、各種疾患に対して、PTとしての評価および治療技術を習得する。	3年・通年	60	2		○	○	○	○
○		内部障害理学療法学Ⅰ	心筋梗塞や狭心症などの循環器疾患患者に対する理学療法が必要とされるようになり、近年大動脈瘤や末梢血管疾患患者まで対象が広がっている。本講義では、循環器に関する解剖や生理を復習し、各種循環器疾患の病態、検査・評価の診かた、リスク管理、運動療法の進め方などを解説する。	3年・通年	30	2	○		○	○	○
○		内部障害理学療法学Ⅱ	呼吸器における解剖学、運動学、生理学について学び、必要とされる基礎知識を習得する。COPDの病態とその運動療法の意義を理解する。呼吸器疾患における理学的所見のとり方と理学療法アプローチを経験する。	3年・通年	30	2	○		○		○
○		内部障害理学療法学実習	正常な身体の代謝について理解した上で、生活習慣病を予防するための栄養指導、運動処方などの理論を学び、対象者個人の状態に合わせた具体的な運動処方を組み立てて、説明できることを目標とする。	3年・通年	30	1		○	○	○	○
○		成人神経系理学療法学Ⅰ	中枢神経の機能解剖から障害を予測できる。中枢神経障害の障害構造を理解して評価、理学療法(PT)について理解できる。	3年・前期	15	1	○		○	○	
○		成人神経系理学療法学Ⅱ	中枢神経の機能解剖から障害を予測できる。中枢神経障害の障害構造を理解して評価、理学療法(PT)について理解できる。	3年・前期	15	1	○		○	○	
○		成人神経系理学療法学実習	中枢神経の機能解剖から障害を予測できる。中枢神経障害の障害構造を理解して評価、理学療法(PT)について理解できる。	3年・通年	30	1		○	○	○	○
○		物理療法学	炎症、創傷治癒過程、拘縮、運動制限などの障害の原因を病理学的にとらえ、物理的な刺激が身体に与える影響を学び、物理療法の作用と副作用、禁忌を学習することを目的とする。	2年・後期	30	2	○		○	○	○
○		理学療法演習Ⅰ	理学療法領域の研究の目的ならびに測定機材についての学習内容をもとに、実際に研究の手法を行い、実験計画、文献検索、発表方法、論文作成までを経験する。	3年・通年	240	8		○	○	○	
○		理学療法演習Ⅱ	理学療法演習Ⅰの内容を踏まえた上で、今後、臨床の場において科学的な手法を用いて臨床研究、症例報告の手法を習得することを目的とする。	4年・後期	150	5		○	○	○	
○		総合理学療法学演習	1年次から4年次までの基礎医学、臨床医学、専門分野の内容を、基礎知識の整理とともに、画像や検査データなどを用いて、症例を様々な視点から理学療法の実践に向けたPTプログラムの立案を目指す。	4年・後期	210	7		○	○	○	

○	地域理学療法学	今日、保健医学進歩により疾病構造も大きく変化しており、また社会福祉制度は国民全体を対象とした生活安定を支える役割を果たして行くことが期待されている。このような背景を理解した上でICFにより客観的に評価・分析し、それに基づいて対応を図る能力を養う。	3年・後期	30	1	○		○	○				
○	生活環境論	テクニカルエイドや住環境に至るまでの知識と技術を持つことを目標に、諸々のサービスの利用について理解を深めることを目標とする。	3年・通年	30	1	○		○	○	○	○	○	
○	老年期理学療法学	老年期障害の成因、病態について理解し、障害の回復促進及び健康維持と障害予防に対する理学療法を学習する。老年期障害に対する理学療法法の意義と社会的役割について理解する。	3年・前期	30	1	○		○				○	
○	予防理学療法学	地域包括ケアシステム導入を控えて、1次予防、2次予防の重要性を学び国のシステムや各市町や住民団体との交流について学習する。運動についても紹介する。	3年・前期	15	1	○		○				○	
○	見学実習	医療機関や福祉施設などにおける理学療法士の仕事内容と役割について理解する。患者様の持つ様々な障害の全体像を理解する。理学療法士を学ぶ学生にふさわしい人間性を獲得する。	1年・後期	45	1			○	○			○	○
○	評価実習Ⅰ	学校で学習した関節可動域検査、徒手筋力検査を、実際の臨床場面で体験し学習する。各評価項目に対して、適切かつ信頼性のある検査測定が行えることを目標とする。	2年・後期	45	1			○	○			○	○
○	評価実習Ⅱ	障害を有する患者様に対して適切な検査測定項目が選択でき、総合的な評価が実施できる能力を習得する。また検査測定結果から問題点を抽出する能力を習得する。	3年・後期	180	4			○	○			○	○
○	総合実習	評価の結果をもとに適切なプログラムを作成し、臨床実習指導者の監督下で適切な治療、訓練方法を習得する。	4年・前期	540	12			○	○			○	○
合計		72(実習含む) 科目	3405単位時間(137単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：	1 学年の学期区分	2 期
卒業認定は全ての授業科目及び実習の単位を修得した学生について、各学科の学	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。